

本書のねらいと構成

本書は、ICT（情報通信技術）を活用した授業を展開するスキルを身に付けるための教員向けテキストです。2020年度から小学校を皮切りに全面実施された学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けています。つまり、児童・生徒が読み書きするのと同じように、コンピューターやインターネットを使った情報の収集や発信ができるようになることを目指しています。

むしろ、デジタル化が進む現代社会においては、情報活用能力が読み書き能力そのものであると言えるかもしれません。仕事や生活のあらゆる場面でデジタル機器が使われ、今やICT抜きで生きていくこと自体が難しい時代です。

ところが、そうした世の中から取り残されていたのが小中高等学校の教育現場です。一部の地方自治体や私立学校を除き、ICTを活用した教育は浸透していませんでした。大人になれば当たり前のように要求される情報活用能力が、学校教育では十分に育まれる環境がなかったのです。日本の子供たちは海外の子供たちに比べ、学習にコンピューターを使う割合が極端に低いという調査結果もあります。

しかしこの状況は、2020年度から始まったGIGAスクール構想によって大きく変わりました。小中学校では児童・生徒1人に1台のコンピューターが配備され、高速な校内ネットワークが整備されました。高等学校においてもBYOD（利用者自身の端末持ち込み）によって、生徒が各自のコンピューターを使うようになりつつあります。

児童・生徒に情報活用能力を身に付けさせるには、1人1台の端末を生かし、授業において日常的にICTを活用することが効果的と言われています。これまでの紙の教科書やノート、黒板、図書室の書籍などと同じように、パソコン、タブレットとその上で使うソフトウェア、デジタル教科書、大型提示装置、インターネットなどを上手に利用することが求められます。それは教員にも相応のICT活用能力がなくてはできません。

————*——*——*

本書は、教員が授業などでICTを普段使いするために必要なグーグルやマイクロソフトのグループワークツールの使い方をはじめ、知っておきたい教育著作権とセキュリティの基礎知識などを解説しています。さらに、本書はクラウド型学習コンテンツ提供サービス「日経パソコンEdu」と連携して学べるのが大きな特徴です。

日経パソコンEduは、日経BPが月2回発行する「日経パソコン」の中から特に有用な記事をピックアップして提供しています。紙幅に限りがある本書では解説できなかったOfficeアプリやプログラミング、クラウドサービスの活用法など、さまざまな分野の記事が読めます。本書と日経パソコンEduをICT活用教育にお役立てください。

日経パソコン編集長 江口 悦弘